

英語学習指導案（コミュニケーション英語Ⅲ）

指導月日：令和2年11月10日(火)5限
授業者：森 真紀子
学 級：3 年 6 組

1 教 材

「共通テスト施行調査（2018年11月実施）」第3問B

「2021共通テスト対策【実力完成】直前演習 英語（リーディング）40minutes×14」（Learn-S）第2回 第6問A

「大学入学共通テスト 英語リーディング 単元別問題集」（駿台文庫）第6章 B問題¹

2 教 材 観

本時は、共通テスト施行調査（2018年11月実施）や複数の大学入学共通テスト対策問題集の中から、つなぎ語（ディスコースマーカー）を意識して読む訓練に適した素材を抽出して使用する。共通テストで出題される英文のジャンルや問いの形式は様々だが、英文を素早く理解し要点を押さえて効率よく読む力があれば、どの問題にも対応できるはずである。よって本時はつなぎ語を意識した読解の訓練を行い、読むスピードと質の向上を目指す。

3 学 級 観（3年6組：男子21名・女子17名）

理系クラスの1つである。全体的にややおとなしいが、相互に協力し助け合いながら学習する雰囲気があり、グループ活動やペア活動にも積極的に取り組む。全員が大学への進学を希望し、共通テストを受験予定である。英語に苦手意識を持つ生徒も少なくないため、英文を素早く正確に読む訓練を多く積み、共通テストや二次試験への対応力を身に付けさせたい。

4 本時の目標及び評価規準

（1）本時の目標

- ① つなぎ語の知識を用いて、適切なつなぎ語を選択したり、適切な順番で文を並べたりすることができる。（外国語表現の能力）
- ② 英文の内容を素早く正確に読み取ることができる。（外国語理解の能力）
- ③ 課題に対して自分なりの答えを導き出し、思考の過程を他者に説明することができる。

（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

（2）評価規準

1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度	2 外国語表現の能力	3 外国語理解の能力	4 言語や文化についての知識・理解
A 自分の考えを他者に積極的に伝えようとしている。 B 他者の意見を聞き、理解しようとしている。	A 英文の内容を踏まえ、適切なつなぎ語を用いることができる。 B 英文の内容を踏まえ、文を整序することができる。	A 英文の内容を素早く、かつ正確に理解することができる。	

5 本時の実際

過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	評価規準	評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 ・本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 ・本時のねらいを説明する。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの文または節をつなぐのに適したつなぎ語を選択する。 ・なぜそのつなぎ語を選択したのか他者と話し合う。 ・それぞれのつなぎ語の果たす役割を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドで問題を提示し、生徒に考えさせる。 ・ペアで答えとその理由を確認させる。 ・正解とその導き方を確認する。 	1 A 1 B 2 A 2 B 3 A	活動の観察
	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ語の知識を用いて、英文整序に取り組む。その際、なぜそう考えたかをメモする。 ・グループで答えとその理由をシェアする。 ・他のグループの答えとその理由を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文整序問題に取り組ませる。 ・グループで自分の答えとその理由をシェアさせる。複数の答えが出た場合は、全員で納得のいくまで話し合い1つに絞るよう伝える。 ・全体で答えを確認する。 	1 A 1 B 2 A 2 B 3 A	活動の観察
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返る。 ・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動で気づいたこと、また学習したことを今後どのように生かしていきたいか生徒に考えさせる。 ・挨拶をする。 		

6 研究授業を終えて

今回の研究授業では、日頃の授業において4技能の育成を図りながらどのように大学入試に備えるかを課題とし、ディスコースマーカーを意識した読解や自由英作文に焦点を当てた授業を行った。個人の考えを他者と共有する機会を設けることで、生徒の考えや理解が深まり、学習への意欲が増すことを実感した。またフィードバックを丁寧に行うことの重要性も改めて認識した。今後も生徒の実態やニーズに合った課題を設定し、生徒に達成感を味わせながら4技能を総合的に育成できるよう教科指導力を向上させていきたい。